

教材企画書

1. 教材のタイトルと内容

(1) タイトル
日本語入門 - 日本語の文字「カタカナ」を書く (本サンプルは「教材設計マニュアル」p165より転載)
(2) 内容
外国人に日本語入門としてカタカナを教える

2. 教材の対象者集団

(1) 対象者集団
日本語について全くの初心者の在日外国人(成人)

3. 内容選択の理由(教材の4条件に照らして)

(1) 自分がよく知っている内容/よくできることか?について説明してください。
自分の母国語であり、よく知っている内容である。 しかし、外国人に日本語を教えた経験がないのでその点が不安である。
(2) 教材づくりの協力者が得られるか?について説明してください。
いきつけのバーに片言の日本語しか話せない外国人が働いており、日本語の書き方を教えてもらいたいと言っているので、何人かの協力が得られる予定である。
(3) 短時間(1時間)で学習できるか?について説明してください
カタカナを全部覚えるのは1時間では無理なので、50音表を見ながらいくつかの外来語をカタカナで書いてみることを教えたい。それでも1時間では無理かもしれないが、これ以上簡単な内容は思い当たらない。
(4) 個別学習教材で教材が「独り立ち」できるか?について説明してください
いつでも取り出せるハンディな50音表をみながら、プリントの指示に従って自分で勉強できるような教材を作りたい。外国人が書いたカタカナがあっているかどうかをどうやって外国人自身が確かめるかが問題となるかもしれない。

4. 学習目標と目標の性質

(1) 学習目標
1. カタカナの50音表を見ながら、カタカナで各言葉(カメラ、ラジオなどの外来語)を英語から日本語(カタカナ)に直すことが出来るようになる。これは、カタカナを覚えるのではなく表を見ながら書くルールを応用するので<知的技能>の目標である。
2. 難しい日本語の書き方を今後も勉強してみたいと思うようになる。せっかくの第一歩なので、もうやりたくないと思われないように今後も勉強を続けてみようと思う気持ち<態度>の目標も意識して教材を作りたい。

5. 事前事後テスト

(1) 事前/事後テスト(文章)
1. 事前テストは、全くの初心者を相手にするのでカタカナを習ったことがあるかどうかを口頭で質問する。習ったことがない人だけを対象とする。
2. 事後テストは、次の問題を出す(5問中4問正解で合格:学習目標1に対応)。 Question: Write the following words in KATAKANA using the Matrix. camera () radio () tennis () juice () orange ()

3. アンケートで続編をやりたいかどうかを尋ねる（学習目標2に対応）。

Would you like to continue to Part2 ? (Actually Yes / Yes / Not yet / No)

6. 教材利用者の前提条件とそのチェック方法

(1) 前提条件

日本語については、全くの初心者なので前提行動は何も仮定できない。しかし、日本語を全く読めないので、説明を英語で書かなければならない。

対象者が50音表のようなマトリックスを読めないと困るので、「マトリックスが読めること」を条件とする。これは、対象者を大人に限定すれば、チェックするまでもないと思われる前提行動であるが念のためカタカナの（下のような）五十音表以外のマトリックスで、教材をやる前にチェックする。正解者のみを教材に進ませる。

Subject	TARO	HANAKO
math	97	57
English	45	66

What is Taro's score on English?

7. 報告書作成者と点検者名

(1) 作成者

鈴木 克明

(2) 点検者 1

井口 巖

(3) 点検者 2

井ノ上 憲司